

# 『瞑想のために座す』

～明快さに対するの障害～

瞑想のために私が座ると、  
私の中の悪魔も同様に参加します。

「君は本当に瞑想がしたいのかい？  
時間の無駄ではないのかい？」  
疑い深い声が聞こえます。

私が笑顔で「なぜだい？」と、言えば、  
その声は、瞬間的に黙ります。

しかし、瞑想し始めた途端、  
様々な悪党が現われます。

悪魔の1人は、  
「おい！俺は魅力的なアイデアをたくさん持ってるぞ！  
俺のことを聞いてくれれば、教えるぜ！」と言います。

この悪魔は、狡い賢いし、希望を操るのも上手です。

この悪魔から逃れる唯一の方法は、笑顔で「けっこうです。  
私はすでに十分なアホですから」と、言うことです。

もし、私がこの方法をとるならば、  
わずかながら静寂はやってきます。

しかし、まだ他にも多くの嫌なやつらは、  
私の耳をつかむことを切望しています。

私たちは強い欲望、怠惰、勇気を持って立ち向かうこ  
とや恐怖を忘れてしまった。

これらの幽霊は、負のエネルギーに繁栄します。  
そして、何も提供せずに約束をすることが大好きです。

しかし、時には恵みを通して、  
これら眠りの悪魔と獣によってスリップします。

そして、少なくともしばらくの間、  
私は古代のエネルギーに浸れます。



玲亜：（ビールを手に）悪魔のことをあまり心配すると、つまらないやつになります。

悟： 賛成！「霊」について、あまりにも多くの心配は、無用の長物です

ミン：（あくび）私が考える哲学における1つだけの質問：最高の味のアイスクリームを発見することができるだろうか？

ティム：なぜ正直なこと言わない？あなたは不精と羨望、恐怖を膨らませてはいませんか？

- T Newfields (和訳：吉田典子とテレサ)

開始：2009年東京 ♪ 完成：2018年横浜市

